

B-6. 「ゲーム面白くしよう」(ビー玉ころがし)

常磐会短期大学付属常磐会幼稚園(大阪府大阪市)

[5歳児]

ボールころがしつくってみよう

5月、児童遊戯施設「キッズプラザ」に遠足に行く。子どもたちが長時間楽しんだ“ボールころがし”的遊びがあった。これは高低差のあるレール上にゴルフボールを転がして遊ぶものである。子どもたちは何度も繰り返し楽しんだこの遊びを、幼稚園でも楽しみたい思い、日頃身近に扱っている、ペットボトルや牛乳パックを使ってコースを作ることにした。

玉の転がり方が、子どもの思いに一番近いものではじめの大きさのビー玉がやはり一番いいということになったようだ。

さあころがすよ～



試す



軽いのはアカン
重いの！

「やった～レールができた！」

(牛乳パックのコース作りから)

牛乳パックは半分に切るのがかたかったようで、はじめは苦心していたが、コツを覚えると、早く作りたいという思いからか、あっという間に長くつないで、レールが出来上がった。牛乳パックを重ねてたてにつないだものを土台にし、レールを乗せ坂道ができた。はじめは直線であったレールも、「キッズプラザのはこんな風になってたで！」と途中、高低差をつけたりするなどキッズプラザで遊んだものに近づけようと工夫をしていた。

ちょっと
かたいなー



つながってきたぞ！！



「どんなボールがいいのかな？」

レールが出来上がっていくと今度はボールをどうするのか。「紙を丸く丸めたらいいねん」「キッズプラザと一緒にゴルフボールがいいわ」そこで紙のボールを作って試してみる。期待して見ていた子どもたちであるが、ボールは子どもたちが思ったように転がらず、途中の段差のあるコースで止まってしまった。「あんまりころがれへんな～」「どうしてかな？」「このボールじゃ、軽いわ」「もう少し重いやつがいいねん」と口々にボールの性質を話し出す。「やっぱりゴルフボールがいいわー」という声に「硬いボールはちいさい組さんあぶないかなー」保育者が言うと、「そっか～けがしたら困るもんな～」「じゃあビー玉は？」「ビー玉もかたいで！」しかしちいさいので大丈夫ではないかという意見もあり、ビー玉に決定。園にあったビー玉をレールに転がすとうまく段差も跳び越えてゴールに到達でき、「やった～成功。やっぱりビー玉がいいな～」その後も色々な大きさと重さのボールを使ってみたが、ビー

「ゴールを作ったらいいねん」

(ペットボトルのコース作りから)

ペットボトルのコースも牛乳パックのコースと同様につないで出来上がっていくが、出口がオープンになっているため、ビー玉は色々な方向に転がっていく。拾い集めたり、ビー玉を追いかける事を繰り返し楽しんでいたが、「ゴールを作ったらいいねん」とボールを止める方法を考え出した。出口の最終の位置が少し高めになって、ビー玉が飛んで出てくる事が面白いのか、「ここからななめにビー玉が出てくるから、ゴールが動くようにしたらおもしろくなるよ」とキャスター付の台を持ってきて、ペットボトルの入れ物をのせ、台をくるくる回し、落ちてくるビー玉が中に入るようにならした。「ゴールをふやそう」と、ペットボトルをふやし、3つのゴールができた。「ゴールに色をつけよう」ということで赤、青、黄色の3色に色分けをした。ビー玉を転がすと、ゴールで待っている子どもが台をくるくる回す。どの色のゴールに入るかがわからなく、わくわくしながら遊ぶことができた。



「いくよ～」「いいよ～」ゴールでキャスターを回してさあ何色にはいるかな？

「バザーのゲームやさんにしたらいいねん」

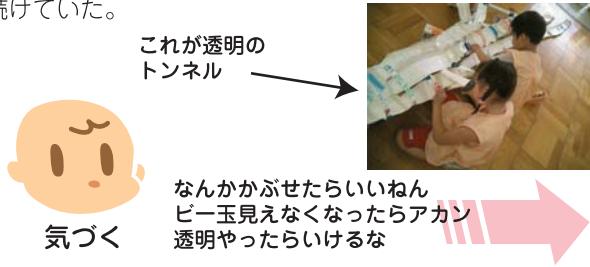
「バザーのゲームやさんでビー玉ころがしをしたら？」という意見が出た。他の子どもたちも賛成。さらに話し合いを進め、ペットボトルのコースのゴールが色別になっていることから、入ったゴールの色の所からおみやげをもらうということが決まる。牛乳パックのコースは1つしかゴールが無いことから「分かれ道を作ってゴールを3つにしたらいいんとちがう？」と子ども達の思いが一致した。別々の保育室で遊んでいたビー玉ころがしの遊びを1ヶ所に移し、遊びの約束が共有できるようにした。『きらきらショップ』と名づけたゲームやさんに向け、新たに工夫を加えての遊びが始まった。



こっちにビー玉ころがってくるかな？

**「なんか、いい方法ないかな？」**

一つのコースから分かれ道を作ったり、隣のコースに転がるようラップの芯をつなげたりと色々なアイデアを出し合いながらビー玉転がし作りが進み、完成の兆しが見えてきた。うまく転がるかを早速試してみた。ビー玉が勢い良く転がりすぎてコースからはずれ飛んでしまう。「ゴールまでいけへんかったら、おみやげもらわれへん」「そんなん楽しくないな」「どうしたらビー玉が飛んでいかないかな？」と何かいい方法はないか考え始めた。「レールの上に牛乳パックをかぶせたらいいんとちがう？」と牛乳パックの一片を飛んでいく部分にかぶせるが、それではビー玉が見えなくなる。「なんかいい方法ないかな？」と考えていると隅でペットボトルを切っていたG児が、やりとりをしている友達に近づいて来た。「じゃあ、これかぶせてみたら？」とペットボトルを半分にしたものをさしだすと「透明のトンネルや！」「これやったら、ビー玉みえるな」と大喜びで牛乳パックの上にペットボトルを取り付け、ビー玉を転がす。「やったー、ペットボトルのトンネル通って、ゴールについた！」「Gちゃんすごいなあ、ありがとう」G児も他の子どもたちも満足そうに遊びを続けていた。

**「いらっしゃい、いらっしゃい」**

こうして色々な試行錯誤を繰り返しながらビー玉ころがしの遊びがバザーのお店屋さんにつながった。バザー当日はたくさんのお客さんを迎えてゲームコーナーも盛り上がり、子どもたちも自分たちで作ったお店を存分に楽しむことが出来た。



チケットください



「三つともちがう色に入ったら金賞ですよ
鈴を鳴らしてお店を盛り上げています

まだまだ遊びはおわらない

バザーが終わり、ゲームやさんのコースを外に出して遊んだ。牛乳パックのコースは砂場では、砂の重さや水に負けてしまいすぐにコースが崩れてしまった。ペットボトルのコースは水にも強くプール遊びで活用できた。今度はビー玉の変わりにスーパー・ボールを使って転がした。水に浮くのと色のきれいなと、何よりも大量にころがしてもいい！こうして遊びはまだまだ続いていった。



水を流して
スーパー・ボール
を流します



受ける子ども、流す
子ども、遊びの中で
役割交代しています

またトイレットペーパーの芯を使って、新しいコースを作っている。今度はビー玉が段々に落ちて行く様子がすぐにわかり簡単に出来上がるのが魅力。

子ども達のコース作りはまだ当分続きそうである。

**5歳児のめばえ ふしぎふしぎ**

ビー玉ころがしという遊びを通して、さまざまな気づきや疑問の中で『ふしぎふしぎ』と科学する心がめばえてきました。保育者がきっかけをつくり、その遊びが継続するよう、子どもの心に寄り添いながらじっくりと向き合って遊ぶことで探究心はおさまることなく、遊びをすすめるなかで試したり工夫し、時に問題に当たりながらも友達と協力し、互いの考えを出し合って、問題を解決し、遊びの目的を達成し、満足感を味わい、さまざまな物のしくみに気づき、どうすれば遊びが楽しくなるのかを考え、探究心を進めながら、遊びを広げることができたのです

ポイント

共通体験した「ボールころがし」のイメージがあるので、コースを作りやすい牛乳パックを使って「こうして作るといいだろう」と予想ができ模倣することから始めました。そして、「転がすボールは？」「ゴールやコースなどゲームを面白くするには？」と自分たちで共通の課題を持って考え合うことで、遊びが展開しています。ボールの転がり具合を試す中で動きの特徴を捉え、重い方がいいと予想して試し、ビー玉に決めています。

コースやゴールが1つでは面白くないという考え方から、コース作りの工夫が出ます。〈どのゴールに入るか分からない動くゴール・ビー玉が飛び出さないようにする・見えるトンネルにする〉など遊びの面白さを追究することによって、考え、試し、工夫が次々と生まれて遊びが深まる中で、「科学する心」が育まれています。